

～親子で防災キャンプ！～

平成26年9月27日～28日 神奈川県立愛川ふれあいの村

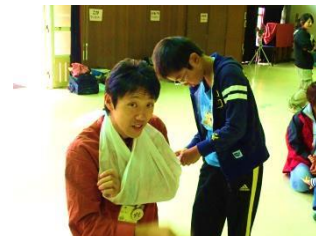
清涼な気候の中、主催事業『親子で防災キャンプ！』を開催しました。21家族68名の参加者が集まり、はじまりのついでにスタート！初めてふれあいの村に来た方が多く、緊張の面持ちでしたが、みんなでゲームをして大盛り上がり！たくさん笑い合い、すぐに打ち解けていきました。



次に、『木の名札』を作ります。避難所での生活では、初めて出会った人でも名前がわかると、話しかけやすくなります。世界で1つだけの木の名札を胸につけ、昼食を食べました。気が付くと、昼食後にはすっかり仲良しな子どもたち。綱引きやトランプ、鬼ごっこをして楽しい時間を過ごしました。



午後は『防災アドベンチャー！』。まずは愛川町消防半原分署の森田さん・山崎さんを招いて『とっさの応急手当て』についての話を聞き、三角巾を使っての応急手当もその場で実践しました。質問タイムでは「一番大変なお仕事はなんですか？」「逆にうれしいことは？」と、積極的に子どもたちからの質問が飛び交いました。



次は『防災グッズ作り』と『簡易テント作り』を班ごとに分かれ、職員から伝授！『防災グッズ作り』では、電気の供給が途切れた時のための明かりとして『オイルランタン』と『ろうそく懐中電灯』を、家にある身近なものを使って作りました。「これでどうつくの？」との声も…。灯してみるのには夜のお楽しみ…♪



『簡易テント作り』では、ロープワークを真剣な顔で学びつつ、ブルーシートとロープを使って、自分たちの家となる、簡易テントを作ります。何回もやっていくうちに「なるほど！わかった！」という声が聞こえてきました。何度もやって身につけて、美しく仕上げるのがロープワークの基本！日常生活でも活かせるロープワークをマスターし、どの家族も上手に簡易テントが完成しました。さらに過ごしやすい寝床をダンボールやマット、寝袋を敷いて作ります。玄関扉や下駄箱を作る家も！各家族の個性が溢れ、より快適な家となりました。



夕食は炊き出しで、お湯を注ぐだけで出来あがる、 α 米を食べました。「普通に炊いたご飯みたい！」「初めて食べました。思っていたよりもおいしい！」といった感想が多く聞かれました。初めて食べた子どもが多かった、おかずのさば缶は「子どもが食べられるとは思ってなかった！」という保護者の驚きの声もありました。



お風呂に入った後、夜のつどいでは自分たちで作った『オイルランタン』と『ろうそく懐中電灯』を点灯。どちらも「意外と長時間火がついて、消えないんだ～。すごい！」「思ったよりも明るい！」と、あちらこちらで感動の声が飛び交います。灯した火を消し、鈴虫が夜空に響く中、自分たちで作った家で寝ました。



全員で朝を迎えた2日目。避難所での睡眠は思ったよりもぐっすりと眠れた様子。朝食を食べ、2日目のメインアクティビティである『サバイバルクッキング』スタート！空き缶で炊くごはん、鍋を汚さないカレー、サラダ、スープを班ごとに作っていきます。包丁・まな板・お皿を使わずに、極力洗い物を減らすための工夫を凝らした調理。火のおこし方もガスバーナーの使い方もバッチリ！「おいしい！」の声がたくさん聞こえました。



楽しみながらも、様々なことを学んだ防災キャンプ。もしもの時に使えるテクニックは、普段の生活でも役立つはず。そして、いざという時のための経験値があることで、落ち着いて行動ができるはず。そんな自信が少しでもついたのではないのでしょうか。今回学んだこと、感じたこと、得たことを、忘れずに日々を過ごしていってくださいね。

文責：多田

